

令和五年 第四回例会

観世流

緑泉会

令和五年

十二月十七日(日)

午後一時開演

矢来能楽堂



「遊行柳」 シテ 坂 真次郎 (撮影 吉越スタジオ)



「殺生石 白頭」 シテ 中所 宜夫 (撮影 芝田 裕之)

能 Noh

遊行柳

Yusyo-yanagi

中所 宜夫

狂言 Kyogen

無布施経

Fusenaikyoh

野村 又三郎

能 Noh

殺生石 白頭

Sessyouseki shirogashira

鈴木 啓吾

能遊行柳

老柳/精尉 中所 宜夫

遊行上人 殿田 謙吉

従僧 大日方 寛

従僧 則久 英志

里人 野村 又三郎

大鼓 國川 純 太鼓 梶谷 英樹
小鼓 田邊 恭資 笛 一噌 庸二

金子 仁智翔 永島 充

地謡 新井 麻衣子 津村 禮次郎

坂 真太郎 中森 貫太

〔休憩二十分〕

無布施経

住持 野村 又三郎

檀家 野口 隆行

後見 藤波 徹

葛城 城

仕舞

墨 敬子

地謡 筒井 陽子

佐久間 二郎

中森 貫太

石井 寛人

〔休憩十五分〕

能殺生石

里女 野干 鈴木 啓吾

玄翁道人 野口 能弘

白頭 能力 奥津 健一郎

大鼓 柿原 弘和 太鼓 姥浦 理紗
小鼓 大山 容子 笛 一噌 隆之

筒井 陽子 坂 真太郎

地謡 新井 麻衣子 奥川 恒治

藤村 答 佐久間 二郎

〔終了予定 午後五時十五分〕

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。演能やお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場頂く事もございますのでご了承下さい。

能：遊行柳 (ゆきょうやなぎ)

遊行上人(ワキ)が供を連れて旅をしている。奥州を目指して白河の関を越え、分れ道で呼びかける老人(前シテ)がいる。老人は先代の遊行が通ったという荒れた古道に導き、朽木の柳という古歌に詠まれた名木を見せる。新古今集の西行の歌「道の辺に清水流るる柳蔭暫しとてこそ立ちとまりつれ」を引いて、老人は柳の下に塚に寄るかと思えて姿を消す。

里人(間狂言)に柳の謂れを聞き、老人との子細を語れば、さては朽木の柳の精に違いないと、上人は夜もすがら念仏を称える。塚の中から声が響き「柳は別離の恨みの徴しとなっているが、今の上人の御法により成仏への道が開けた」と喜びながら、老柳の精(後シテ)が現れる。

精は、浄土への道を喜び、弥陀の功德を船に例え、船の発明に柳が一役買っていた故事、清水寺縁起の楊柳観音、蹴鞠の庭の柳、源氏物語柏木の一場面などを語り、老いて夢に漂う自らを憐れむ曲舞を舞う。また、御法によって月とともに西方浄土へ赴く有様を、太鼓入り序之舞に舞って、上人への報謝の舞とする。夜明けが迫り名残りを惜しむ。昔、別れには柳の枝の輪を送ったと聞くが老木ゆえそれも叶わず、ただこの遊行上人との縁を喜ぶ。秋風が吹き抜け、朽木ばかりが残る。

狂言：無布施経 (ふせなききょう)

住職(シテ)が月勤めのお経をあげたのに、檀家(アド)はお布施を忘れていた。説教をしたり袈裟を忘れたふりをしたり、要所に「ふせ」の音を聞かせて思い出させようとするが…。

仕舞：葛城 (かつらぎ)

葛城山で大雪に一夜を借りた山伏が、葛城明神の苦しみを癒すべく祈禱していると、明神は現れて感謝の舞を舞う。

雪もやみ天香久山も向いに見える。月も雪も白く輝き、清浄さに包まれるながら、明神は顔貌が露になるのを恥じて夜が明けぬうちに岩戸の中に姿を消す。

仕舞：癖之段 (くせのたん)

能「自然居士」の一節。人買いから少女を取り戻そうと芸尽しを見せる説教者自然居士。手にした扇と数珠を能に見立てて擦り合せると、ついに人買いは少女を返す。この慶事に琵琶湖の波風や雷雨まで音を立てて祝い、居士は少女を舟より下して共に都に帰って行く。

能：殺生石白頭 (せつしょうせきしらがしら)

本曲では通常大きな石の作り物を出す、小書の場合出さないこともあり、今回はそれに従う。

玄翁道人(ワキ)が、奥州から都へ上る途次、那須野に着くと、大石の上空を飛ぶ鳥が次々と落ちて行く。何事かと近づこうとする玄翁を、どこからともなく現れた里女(前シテ)が呼び留める。昔の鳥羽の院の上臈に玉藻前という人がいて、その執心が折しとなって悪さをしてると語る。折しも秋の夕べ。那須野の原には妖気が満ちてゐる。

女はさらに玉藻前について物語る。どこかの誰とも知れないのいつのまにか殿上人となり、美貌と教養で鳥羽の院を虜にした。ある秋の夜、清涼殿で管弦の御遊を催した時、怪しい風が御殿の灯火を悉く吹き消したが、玉藻前の身体より光が輝き辺りを月のように照らした。以来帝は病となり、陰陽師の安倍泰成が占い、玉藻前が原因であると奏上すると、帝はたちまち快癒し、玉藻前は妖狐の本性を現し、この那須野で命を落した。

女は殺生石の石魂と明かして、石の中(幕内)に姿を消す。土地の者(間狂言)に同様の物語を聞いた玄翁は、悪霊を仏体に転じようと祈禱を捧げる。やがて声が響き、石の割れる態で幕より野干(狐のこと。後シテ)が現れる。

野干は、インド、中国と悪事をなし、さらに鳥羽院の玉藻前となったが、安倍泰成に調伏され、那須野に隠れた末、勅命を受けた三浦介と上総介に射殺された子細を玄翁に見せ、この後悪事はしない約束して、再び石と化して姿を消す。

2023. 12.17 (日) PM1:00 (開場 12:00)

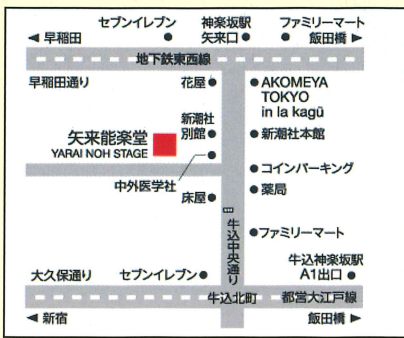
矢来能楽堂

〒162-0805 新宿区矢来町 60
☎ 03-3268-7311

地下鉄東西線神楽坂駅下車 矢来口より徒歩 2 分
都営大江戸線牛込神楽坂駅 A1 出口より徒歩 5 分

駐車場はございません。

近隣のコイン駐車場をご利用下さい。



入場料 (全自由席)

会員券 (年4回) 一般 20,000円 学生 10,000円
1回券 (当日券) 一般 6,000円 学生 3,000円

申込先: 各出演能楽師または緑泉会まで

中所 宜夫 TEL&FAX 042-550-4295
鈴木 啓吾 TEL&FAX 03-3269-7018

令和6年の日程

例会: 2月23日(金祝) 4月6日(土)
9月29日(日) 12月14日(土)
於 矢来能楽堂
別会: 6月1日(土)
於 国立能楽堂

喜多能楽堂は大規模改修工事のため、例会会場が矢来能楽堂に変更となります。ご了承ください。